

## 医療における社会・行動科学

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	1	区分・時間数	講義 12時間
期間	前期		
単位数	1単位		

### ・学修方針（講義概要等）

本科目では、医療と保健の現場で用いられている行動科学の理論とモデルについて概説する。医学的な知識に加えて行動科学の基礎理論を学び、人間の行動を科学的に捉える基礎知識を会得することは、医療と保健の現場において対象者の課題についてロジックを立てて理解し、効果的にサポートすることに役立つ。また、医師、歯科医師、薬剤師、看護職が共通の行動科学理論を理解することは、チーム医療を効果的に実施する上で極めて重要である。行動科学モデルを種々の場面で応用するための基礎を修得する。

### ・教育成果（アウトカム）

人の行動や意思決定に関わる社会的要因、文化要因、心理的要因、およびそれら要因間の相互作用に関する知識を会得し、行動科学理論の医療への応用方法を理解することにより、医療人として患者と対応する際に、患者の課題を理解し、効果的に関わる方法を選択できるようにする。

#### 【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1, 2, 4, 5

### ・到達目標（SBO）

1. 社会、文化、心理的要因により健康観が異なることを理解できる。
2. 健康と環境の関連について説明できる。
3. 個人が保健行動を実行するための一般的条件を列挙できる。
4. 主要な保健行動に関する行動科学モデルを説明できる。
5. 行動科学モデルを、個人、集団、医療など、種々の場面に適用できることを理解できる。

【講義】

月日 (曜) 時限	講座(学科) 担当教員	授業内容/到達目標
4/21 (金) 2 限	心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授	<p>行動科学とは 【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動科学の学問的背景について説明できる。</li> <li>2. 医療における行動科学の役割を説明できる。</li> </ol> <p>健康とは 【双方向授業】 【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな健康観について説明できる。</li> <li>2. 健康を全人的にとらえることができる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書の第 1 章「行動科学と健康」をよく読んでおく。 事後学修：章末の「1 回目講義の復習」をもとに復習する。</p>
5/12 (金) 2 限	心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授	<p>行動や生活様式と健康・病気 【双方向授業】 【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アラメータ研究について説明できる。</li> <li>2. 守っている健康習慣と平均余命の関係について説明できる。</li> <li>3. アラメータ 7 を列挙できる。</li> </ol> <p>ソーシャルサポートと健康教育 【双方向授業】 【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康教育の歴史を概説できる。</li> <li>2. ソーシャルサポート、ソーシャルキャピタルの健康への関わりを説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書の第 2 章「健康と病気に関わる諸要因」をよく読んでおく。 事後学修：章末の「2 回目講義の復習」をもとに復習する。</p>
5/19 (金) 2 限	心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授	<p>保健行動論(1) 【双方向授業】 【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健行動の種類を説明できる。</li> <li>2. 自己効力感について説明できる。</li> <li>3. 自己効力感に関わる要因を列挙できる。</li> <li>4. ストレスの原因と評価について説明できる。</li> <li>5. コーピングの種類と方法について説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書の第 3 章「保健行動とは」「社会的学修理論」「ストレスとコーピング」をよく読んでおく。 事後学修：章末の「3 回目講義の復習」をもとに復習する。</p>

<p>5/26 (金) 2限</p>	<p>心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授</p>	<p>保健行動論(2)【双方向授業】【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健行動に関わる社会的要因について説明できる。</li> <li>2. 保健行動に関わる心理的要因について説明できる。</li> <li>3. ヘルス・ビリーフ・モデルについて説明できる。</li> <li>4. ローカス・オブ・コントロールについて説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書の第4章「ヘルス・ビリーフ・モデル」「ローカス・オブ・コントロール」をよく読んでおく。 事後学修：章末の「4回目講義の復習」をもとに復習する。</p>
<p>6/2 (金) 2限</p>	<p>心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授</p>	<p>保健行動論(3)【双方向授業】【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感情状態と意思決定について説明できる。</li> <li>2. 計画的行動理論について説明できる。</li> <li>3. トランスセオレティカル・モデルについて説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書の第5章「感情状態と意思決定」「習慣化された行動」「計画的行動理論」「トランスセオレティカル・モデル」をよく読んでおく。 事後学修：章末の「5回目講義の復習」をもとに復習する。</p>
<p>6/16 (金) 2限</p>	<p>心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授</p>	<p>総合的協働型健康づくり 【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康教育と環境のかかわりを説明できる。</li> <li>2. プリシード・フレームワークについて説明できる。</li> <li>3. プリシード・プロシード・モデルについて説明できる。</li> <li>4. QOLの種類と評価について説明できる。</li> <li>5. ナッジについて説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書の第6章「総合的協働型健康づくり」をよく読んでおく。 事後学修：章末の「6回目講義の復習」をもとに復習する。</p>
<p>6/23 (金) 1限</p>	<p>心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授</p>	<p>エンパワーメント教育 【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生領域におけるエンパワーメント教育の応用について説明できる。</li> </ol> <p>ライフスキル教育【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. WHOの定義するライフスキルを列挙できる。</li> <li>2. 代表的なライフスキル教育について説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書の第7章「エンパワーメント教育、ライフスキル教育」をよく読んでおく。 事後学修：章末の「7回目講義の復習」をもとに復習する。</p>

6/30 (金) 1限	心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授	<p>ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスリテラシーの定義について説明できる。</li> <li>ヘルスリテラシーの種類を列挙できる。</li> <li>ヘルスリテラシーの健康への影響について説明できる。</li> <li>ヘルスコミュニケーションについて説明できる。</li> </ol> <p>まとめ 【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>講義で学んだ理論を学生生活に応用する方法について説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書の第8章「ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーション」をよく読んでおく。教科書、配布資料から最終回でのまとめができるように復習する。</p> <p>事後学修：章末の「8回目講義の復習」をもとに復習する。          行動科学理論を学生生活に応用する方法について確認する。</p>
-------------------	------------------------	--

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	医療における社会・行動科学 2023	相澤文恵	永代印刷	2023
参	行動科学—健康づくりのための理論と応用 改訂第2版	畑 栄一、土井由利子編集	南江堂	2009
参	健康行動と健康教育 理論, 研究, 実践	Karen Glanz, 他 編集	医学書院	2006

・成績評価方法

定期試験（70%）と提出物（30%）で評価する。

・特記事項・その他

**【事前事後学修の具体的内容及び時間】**

シラバスに記載されている次回の講義内容を確認し、教科書を用いて事前学修を行うこと。また、事後学修として講義時に配布されたプリントで復習を行うこと。各講義に対する事前学修および事後学修の時間はそれぞれ最低 30 分とする。

**【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】**

本科目では、一般的な講義に加えて双方向授業を適宜取り入れて課題に取り組む。講義で取り上げた課題については、講義内で解説する。事後学修として各回講義の学修内容を教科書章末の確認問題で復習し、その結果を WebClass に提出する。各問題の正答とポイントは WebClass にてフィードバックする。

定期試験後にフィードバックとして補講等を実施する。

**【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】**

看護師（別表 3）：専門基礎分野 健康支援と社会保障制度

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (Safari pro FJY-00014)	1	講義資料の提示
講義	デスクトップ型 PC (EPSON MR4800E)	1	講義資料の作成
講義	書面カメラ・DVD プレーヤセット	1	講義資料の提示